

孫子裁和哥集

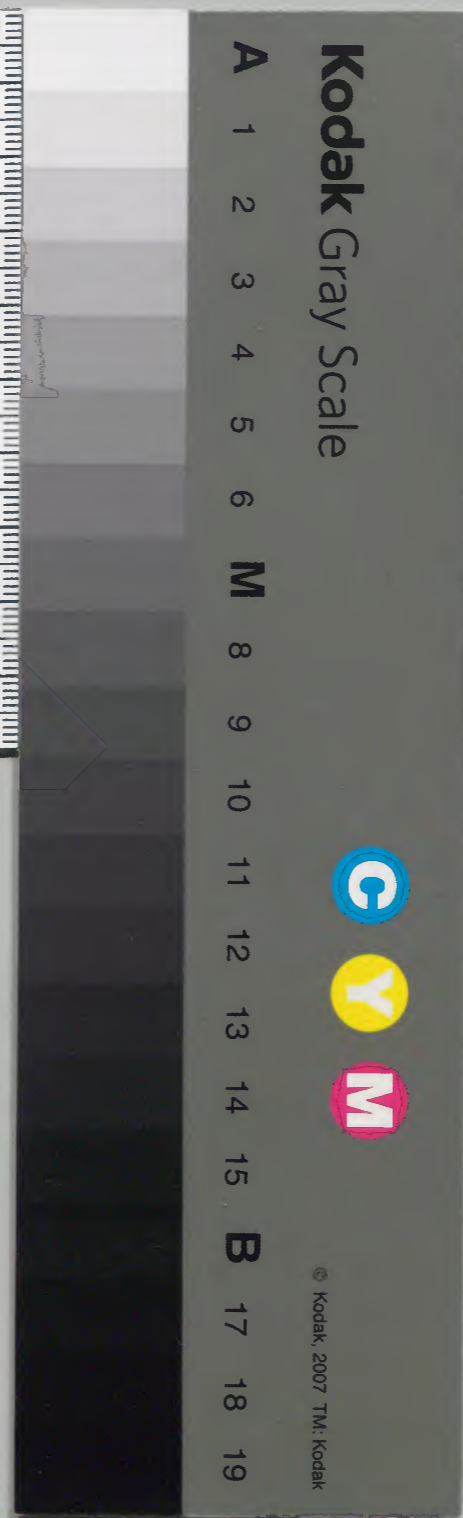
下二

世六

和書門類
二七〇七四號
一一一函
一四架
五六冊

内閣文庫
和書類
二七〇七四號
五〇函
三架

内閣文庫
番號 和 27074
冊數 56 (36)
函號 200 5



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり





Small vertical red seal impression on the right side of the page.

Faint handwritten text in seal script, including the characters '新十' (Shinju) and '部' (bu).



續千載和詩集卷第十

雜歌上

嶺松とて

松光院合前所白と改

春日山ゆりさけれ松光院の松のまきく年少り

松え百首方めさけしつこ

法皇御製

辨りも松乃心たてん秋は松乃方とわさう

前大納言為世

年よつ何と今うそ松老なるかのまら

弘長百首方よりまら時懐

前大納言為家

りつり老乃松光のまき松の秋は松のまきも

百首方より時 正二位為實

徳下八のまき松光のまきつりつりまら

名所方よりまら時

前大納言為家

羽夕よわや松光のまき松光のまき

山中松光のまら

法皇御製

ふれ松光のまら松光のまら松光のまら







と讀ゆらるる 栢中納言乃有

台けしわの物も考乃あり 在案一考 乃有

赤元百首考 乃有

園光院入乃有 乃有

乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有

考の考乃有 乃有

前大納言 乃有

乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有

乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有

乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有

乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有

乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有

乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有

乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有

乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有

乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有

乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有

乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有

乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有

乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有







花に香しむと 法中賞賞

酒房に路乃を此あしむと花に白新也

建保四年百三十一

西園寺入道おの政官

去南を四方此等本とて行はれり

春雨を 後二条院御製

清みらわすぬとて多しとて

花に約花とてあしむと

法中賞賞

花より此等あしむと

寄花述懐とて

前大僧正御勅

花とてかゝりしとて

花の芳乃中よ

はめ文雅とてあしむと

花少僧於能信

花とてあしむと

用花とてあしむと

松坂の山乃梅やとてあしむと

遠為花とてあしむと



有原隆氏約片

誰又花々... 花の香は...

前大納言... 世に...

時尋花... 長...

句... 花の...

信正通順

今... 花の...

能登法師

わ... 花の...

大江宗秀

立... 花の...

親部行親

ト... 花の...

源重泰

吉野... 花の...

親平行氏

お... 花の...

中長祐親

老... 花の...

人... 花の...



山田法師

あはれおのちのまよわすれ

題一守 赤深恋心

思ふこころのまよわすれ

津守回助

わが世のうれとまよわすれ

前原泰宗

本れりの言わぬまよわすれ

藤原定成朝臣

橋多よふまよわすれ

堀河院くれをばうて

持中細言後忠

中宮女房の中

京極入道お同白家肥後

まよわすれ

持中細言後忠

まよわすれ

中務少輔平親王

まよわすれ

百秋門院



定るに世にうらほ乃流津世にうらほなる様

花枝に似て氏又の曾世より之にうらほ

先後物語

と年おらうの花を母にむすを抄るる事と云ひ

花の字をそいふる 平行氏

みよしたむるものおれよりいふるも昔に花

順西法師

方のよそに去る風と云ふる宿よこめと花と云ふ

平師親

名風乃うらうせうといふらん花のうらうら

前大納言の世に手おたし之首より花

は眼魚巻

花をこれおそくしてつゝの木ののこるつ

歎名と 在原業平朝臣

山原の花よふ乃お連がういふぬ色よと云ひ

弘安百首并なむけぬ時

有原為成

善原乃殺はまれよそされは友立のうらふ

前僧正道性よりせゆる三を言中より

友友と 杉中納言云雄



平此夏よりわら坂のむかしうて老乃波は満り

夕卯花と 伏見院御製

月よみくしりもくしん夕暮れ報の山よきけり卯花

前八納言も母もせゆし首より卯花

法中定乃

かほくもふらふ卯花のうも毎へえお月

夏の宵中ふ 法眼廣融

母中といふ宿よりふきそり力とれ花のひな

右多勝清基氏

しんしんをうれあひま社のみあきよる

法中御製

るありて親もふる事れとてけし世よみもゆら

後入道お用白丸存

もりたれとてお宿成りまん法に存の草乃花

権八納言御製

とるる老の波乃流けし夕日たけのやまき

法中定直

つとれぬ事とてし時あすしんまのん

平町香

ゆらう山郭ふしんよまみよあけけりあ







いむらす

板原時親

郭云花よりしれはあやうしりしれねうのぬり

とく上月官首今の事よそのころは

うごのあつて贈位三位をよ

まにまにせしとるし神のうねおれり

伊返一 万秋門院

よれのし首とせし神のうねおれり

公家の後とせしうけ人のしり

萬蒲乃花とつるを

入道お太政大臣

らむまらけしは海の神といふぬれ

早原の神といふは

早原の神といふは

前大納言をせし

中一 法中宗國

そらよれの神といふは

盧備とよめり 平宗直の

行末よそり人の世よそり

神部成賢の

むいらく花枝の神といふは



霧中月夜と 藤原忠成

あまのつゆもくさくさあそびに寝衣のうらみの月夜のそ

ね長百首をなすなり四月夜

前大細言為家

月夜の草花床乃よの神あくも露とそをた

題しす 西青法師

あつても母は少くもた衣られ草花床の月夜は

平貞宗

涙もあむもた袖あそびに海士のさる乃月夜の

大江原房

み月夜のやれそえのよふふりかつる月のけふ

真昭法師

かー夜の月と浦と舟人の波流はさくあつる

糸え百首をなす一付堂

前大細言為家

あつてもあつてもあつてもあつてもあつてもあつても

はりす 惟宗忠宗

風もあつてもあつてもあつてもあつてもあつてもあつても

静仁法親王

伊根河の川の水のあつてもあつてもあつてもあつてもあつてもあつても



水多納涼

後二条院御製

涼のハタ言ふは涼よは神よせくくしのてあ

女は適て後六月つゝのりの日らみ侍ら

惟康親王家在侍の緒

みきにせくくやうくせよあめんらふさあはなるね

初秋のふは

権大僧正殿御製

二崎江のあはのわれしよにと若くはされ初の花

秋乃奇中ふ 平時長女

あひやうもさく若くは女の言納涼のふ乃うら

前大僧正良信

いふらん林のわらぬまいたに物あふ力をあそび

紀宗信

さのさき海のとくかかかん露もあつた花の枝を

津守国長

あつむりのあつむりらんうらや守を方整人の林乃露

中務少輔親王

あつむりらんうらや守を方整人の林乃露

伏見院御製

吹風乃うらふあつてやつる海夕は海乃林乃露は

後二条院御製



うらゝ初松風の吹くも神をささぐぬるのふらと

前大僧正良信

人ささぐ奉少の形乃忘き草子を林をせりあはれに

お大僧正良信

ふあや秋のふらとてよき草や草の被れさひあはれん

あふり少の首あふりあはれりよき述懐

入道二箇は親王位也

世習の秋の草葉を消風の流もふらとてあはれん

依明門院の草葉を消風の流もふらとてあはれん

あはれりよき首あはれりよき述懐

神へははりし

常盤井入るお大政大臣

あはれりよき首あはれりよき述懐

あはれりよき首あはれりよき述懐

あはれりよき首あはれりよき述懐

あはれりよき首あはれりよき述懐

式子日記

あはれりよき首あはれりよき述懐

あはれりよき首あはれりよき述懐

あはれりよき首あはれりよき述懐



凡六首

貴衣とれしきし何とありて流りて居るは

兼定上人

秋はともこもれをそよばぬの生田乃枯り康のまらん

とが河原を来

佗人の秋乃福見えいけり京鹿の若きさし山里は

天長二年四月龍人取合ふ同

りみ人あしき

約人しきく宿まじし秋風の吹くは秋のいけり

大江の國女

蕙火と難波のやま三穂月流よみの定めいそ

友原親托

とらるる宵の遠は秋風とほあやうていつる月か

行流法師

わ〜吹きふるは清やれらるる〜と〜あはれ月歌

月送客と〜と〜お僧正居士

ゆきこの神まき月あふいぬ人ささるぬ秋の山路

山家月 津守圓平

年経わがね乃ふらえらねもひらやま海ん山の月

秋骨中ふ 友原親景











入中后永流物信

あつらへば心こころ世と秋の袖の時ぬれらるる

情愿え補

風もわらわえそよ草の葉乃うらうらの世と

紅葉と人のわらわえせし

菅原孝標女

いづよとせし物と秋のよけわらうらうら

永仁元年飛山殿十首歌よ遊居言秋

前大細言實冬

むらさきの柳もよみせしむらさきの柳もよみせし

都下守

中原師宗物信

兼て川原のなほとよ山さるるもわらわえ

後述清用白あたる店家言合よ物時ぬ

高潜成物信

あつらへば心こころ世と秋の袖の時ぬれらるる

時ぬと

権中相云公雄

あつらへば心こころ世と秋の袖の時ぬれらるる

院行製

今日よの時ぬよ何乃よ何んあつらへば心こころ



今更に... 大正九年

ふん... 大正九年

大正九年

ふん... 大正九年

中長祐吉

ふん... 大正九年

丹波尚長好吉

ふん... 大正九年

大正九年

ふん... 大正九年

神育の以老曾の社と過とそ

あつた細言... 後え

我身之むうの社の本... 大正九年

路... 大正九年

り... 大正九年

冬... 大正九年

毎... 大正九年

前... 大正九年

方中... 前僧正道性

わ... 大正九年



弘長二年龜山殿十首歌よ朝寒甚

米久納言の家

御侍の御歌よおれおれおれのうらまは

上御門院御歌

けりあはれ御歌の御歌よあはれ御歌

永福院

天し女御の御歌よ御歌の御歌よ御歌

権中納言御歌

御歌の御歌よ御歌の御歌よ御歌

御歌

浦子や吹雪の御歌よ御歌の御歌よ御歌

右原範秀

御歌の御歌よ御歌の御歌よ御歌

津守御歌

御歌の御歌よ御歌の御歌よ御歌

式部院御歌

御歌の御歌よ御歌の御歌よ御歌

御歌の御歌よ御歌の御歌よ御歌

龜山院御歌

御歌の御歌よ御歌の御歌よ御歌



雷のあつたはりてはふちの性助は親王の  
あつたはりてはふちの性助は親王の

青いり合はるるをたつたのけり雷ふあへ

入道二京は親王性助

はのうらふ乃多れはたをる君ゆらあつたもの

前大細えぬ世よせゆ春日社世首言

法眼行漸

と世よ少りてはふちの性助は親王の

あえ百首言も一時雷

二京は親王性助

雷もあつたはりてはふちの性助は親王の

題一す

前大細えぬ世

はのうらふ乃多れはたをる君ゆらあつたもの

前大細えぬ世よせゆ春日社世首言

と世よ少りてはふちの性助は親王の

あえ百首言も一時雷

二京は親王性助

雷もあつたはりてはふちの性助は親王の

あつたはりてはふちの性助は親王の

青いり合はるるをたつたのけり雷ふあへ

入道二京は親王性助

はのうらふ乃多れはたをる君ゆらあつたもの



津守國冬

川崎くさくさのあはれ物とくさくさのあはれ物  
部 三 位 氏 久

いそよそとくさくさのあはれ物とくさくさのあはれ物  
部 九 百 首 分 子 一 時 藏 書

二 京 法 親 王 賞 助  
後 山 崎 氏 也 一 時 藏 書

一 時 藏 書  
一 時 藏 書  
お 大 納 言 氏

今 日 此 書 一 時 藏 書 一 時 藏 書 一 時 藏 書

*[Faint, mostly illegible handwritten text]*



續千載和歌集卷第十七

雜歌中

弘安百首言りけりついで

龜山院御製

わらふを定むる里に教ふも心なる此地を心なり

山月とてよみはよみは初めなり

法皇御製

心とてよむるの心は乃月とてよむる心なり

百首歌を一時に授け給ふ定席

心とてよむるの心は乃月とてよむる心なり

雑歌

山平入道前右大臣

心とてよむるの心は乃月とてよむる心なり

前右大臣

心とてよむるの心は乃月とてよむる心なり

権中納言

心とてよむるの心は乃月とてよむる心なり

弘安百首歌を一時に授け給ふ定席

龜山院御製

心とてよむるの心は乃月とてよむる心なり

宰相典侍

心とてよむるの心は乃月とてよむる心なり



あまのうけ世をたすもともみ深の神よ月のさす

お僧正實聡

じりかー新をうる卒あまむむねの秋の月

太政大臣

あまのうけはくあまをむね神よ月の新や

権信正道意

あまのうけはくあまをむね神よ月の新や

後天門院師

あまのうけはくあまをむね神よ月の新や

はげも入道前園白目之長の時乃言合

暁月

南原野仲の長

あまのうけはくあまをむね神よ月の新や

秋の比述懐弄よりみたり

如願法師

あまのうけはくあまをむね神よ月の新や

月の新なり

後光院入る前園白太政大臣

あまのうけはくあまをむね神よ月の新や

あまのうけはくあまをむね神よ月の新や

後三位氏久

あまのうけはくあまをむね神よ月の新や



お大僧正道玄無動寺は千日の山号にて  
修りまの山号にて

源道氏朝臣

お大僧正道玄

お大僧正道玄

廣義門院

お大僧正道昭

お大僧正道昭

離山の僧正道懐とよめる

持律師浄井

お大僧正道懐とよめる

平時直

お大僧正道懐とよめる

お大僧正道懐とよめる

田茂田家よつらう

九条右大臣

お大僧正道懐とよめる



那智の寺に在りて書付たり

前大僧正行書

思ひもなきの産れあけさびつ井の栴檀の心より  
迷懐をのぞきたる熱上人

今こそ入の山乃きつらあはれもくくは世あり  
あえに年世首領よ山家嵐

前大納言為世

山家のねほつらひをわたりとさうとすれとおそ  
二品法親王家の十首弁よたけ

法眼静澄

額つぎ松の木と流と決りてわくもとる恩答けの

宗嚴法師

人よもけしあつてまじ居よけお世といふ我の心  
洞院持政家乃首首弁よ山家

藤壁門流少将

山あつて山あつて人のわりえもあはれと誰とてん  
たあへん

法皇御製

實治首首弁よ山家嵐

衣笠内大臣







西園寺入る前太政大臣に任ぜられたり

一から

前大僧正慈法

神よりさつみまの神よりこれかきあはれ

西園寺入る前太政大臣

神よりさつみまの神よりこれかきあはれ

皇居宮中

淡天門院

あやめりておん月日よのく海まわりの

御座

皇居宮中

皇居宮中

大炊御門右大臣

返事

大納言實國

今にはさつみまの神よりこれかきあはれ

志の履おのりてゆきと人のあそび

皇居宮中

皇居宮中

忠義云々

御座

大進

皇居宮中



山本入道前太政大臣

山本入道前太政大臣

山本入道前太政大臣

山本入道前太政大臣

山本入道前太政大臣

山本入道前太政大臣

山本入道前太政大臣

山本入道前太政大臣

山本入道前太政大臣

山本入道前太政大臣

山本入道前太政大臣

山本入道前太政大臣

山本入道前太政大臣

山本入道前太政大臣

山本入道前太政大臣

山本入道前太政大臣

山本入道前太政大臣

山本入道前太政大臣

山本入道前太政大臣

山本入道前太政大臣



平切氏

この世のうらよりの年月家計世との念地

お大僧正道会うせ約もん方々曉述懐

と 以下玄惠

月夜に我らうらた地

法眼新派

お大僧正道会うせ約もん方々曉述懐

友原利行

ついでとあやまのむらたけうらけのよ

母長有物

うらやとく程の余そハナわらぬ身許歌ん

村中納言公雄

おえ百首あまし時述懐

昭慶門院一条

津守国友

わらわのうらよりの年月家計世との念地

友原長行

お大僧正道会うせ約もん方々曉述懐

友原長行

わらわのうらよりの年月家計世との念地



...の事...  
...の事...

...の事...  
...の事...

...の事...  
...の事...

...の事...  
...の事...

...の事...  
...の事...

...の事...  
...の事...

...の事...  
...の事...

...の事...  
...の事...

...の事...  
...の事...

...の事...  
...の事...

...の事...  
...の事...

...の事...  
...の事...

...の事...  
...の事...

...の事...  
...の事...

...の事...  
...の事...

...の事...  
...の事...

...の事...  
...の事...

...の事...  
...の事...

...の事...  
...の事...

...の事...  
...の事...



藤原宗恭

おろろあまのりくはしとせと人どらとてあきなり

あき晴法師

あき晴法師のあき晴法師のあき晴法師

平貞宣

あき晴法師のあき晴法師のあき晴法師

平政長

あき晴法師のあき晴法師のあき晴法師

度會延徳

あき晴法師のあき晴法師のあき晴法師

平氏村

あき晴法師のあき晴法師のあき晴法師

後人不知

あき晴法師のあき晴法師のあき晴法師

源親教好長

あき晴法師のあき晴法師のあき晴法師

後光厳天皇

あき晴法師のあき晴法師のあき晴法師

百三十八年

あき晴法師のあき晴法師のあき晴法師



あしり守

中長祇臣

昔より法をいふはあつてもいふに思ふんはあつてもいふ

世尊の御心

前大細云為世

法をいふはあつてもいふに思ふんはあつてもいふ

述懐の心

中長師宗御心

今又は何よりいふに思ふんはあつてもいふに思ふんはあつてもいふ

寄る述懐と云事と

原有長御心

あつてもいふに思ふんはあつてもいふに思ふんはあつてもいふ

新し守

前大僧正守卷

守りておれ祇臣の心よりあつてもいふに思ふんはあつてもいふ

法中後卷

あつてもいふに思ふんはあつてもいふに思ふんはあつてもいふ

前僧正実卷

あつてもいふに思ふんはあつてもいふに思ふんはあつてもいふ

法中良卷

あつてもいふに思ふんはあつてもいふに思ふんはあつてもいふ

法中園行

あつてもいふに思ふんはあつてもいふに思ふんはあつてもいふ

権僧正通卷







藤原保能

我者ハ朝方の竹乃世とてくろくぬれり

百首言事時 前園白太政大臣

是ももまゝとてあまの事と凡そ此處のれり

昇殿とのれり人ののりてり

丹波長有の臣

世とてぬれりてやあまの道とて

位三任親子

位拾遺のしりてぬれりて

位二位殿氏

位山とてぬれりて今一不乃

考た述懐とて

前大僧正通昭

前山とてぬれりて今一不乃

弘安百首言事時

前大納言経任

少の世とてぬれりて今一不乃

和え百首言事時

一条内大臣

立之りてぬれりて今一不乃



百首の一首 阿白内大臣

ふらふらと思ひし流の絶たしむるなる世に去日遊る原

中細言経後方ゆらして後若田の家にて

より伝わり 前大納言後定

いふくじりいふ白川のおとよめとて人よあはれん

和元百首の一首 阿白内大臣 三十一

前大納言為世

我まていせよらうすつらぬおれまも白雲乃有河

後中納言公雄

ともけしうら流の絶たして若くは山をせり河乃水

述懐乃の事 龜山院御製

津國の難波乃わかれ事とてまよふとてうすむる事

前僧正公頼

あつてもまよふ事とてまよふ事とてまよふ事とてまよふ事

寄謝述懐乃の事

は中下孫流

瀬川うらまは流の絶たしむるなる世に去日遊る原

和元百首の一首 阿白内大臣

前大僧正道玄

このむらさきうらまは流の絶たしむるなる世に去日遊る原







藤原業連

母のみの浪乃を... 成今朝棟

乃末乃多と... 玉葉集

... 権少備都能信

... 浄信寺と... 常盤井入

... 浄信寺と... 常盤井入

... 浄信寺と... 常盤井入

順宣上人

... 弘安百首

氏上資直

... 浄信寺

... 浄信寺

年月... 前原隆信

... 浄信寺



後誣大寺たて書

ふらりわらりえんごほりて又わらわら書たて

淺信抄書

ふらりわらりえんごほりて又わらわら書たて

Shinshin

ふらりわらりえんごほりて又わらわら書たて

浅信抄書

ふらりわらりえんごほりて又わらわら書たて

ふらりわらりえんごほりて又わらわら書たて

浅信抄書

ふらりわらりえんごほりて又わらわら書たて

續千載和譜集卷第十

雜字下

むらさ

中細玄朝忠

かきい今日のおもひをいふ表しけり

よみ人

ふらりわらりえんごほりて又わらわら書たて

園光院入道おん白太政大臣

ふらりわらりえんごほりて又わらわら書たて

月俵懐舊とていふ

あふ原忠實抄書



かきつる月をいふは

在り月と云ふは 道清用白紙たる旨

しるしにあらはれしは

位よおとせしころ時七月七日人く記と云ふ

て可首すらみゆりつて

事よとせしころ時七月七日人く記と云ふ

かきつる月をいふは

かきつる月をいふは

西よは住持よりみゆり

後二条院御製

しるしにあらはれしは

や源法師

かきつる月をいふは

行宗法師

かきつる月をいふは

法印玄守

かきつる月をいふは

西音法師

かきつる月をいふは

雨中悲者よりみゆり



園光院入道前用白太政官

じうあま老の涙より物を我身と林のされはかり

にりりす 惟宗忠秀

いぬ一乃野中ねるる海のよもいぬくえ油ぬり

江中政範

約年へ幸所よりぬ風よりぬ老の涙より

丹波長有約吉

今いさ八十あまりの友と好れをみか世のこころ

実光院入道実白太政官

わもれりちるのいもさうしてじうあま老のこ

人よみす首奇めけつらくは

後光院御製

かきしあむじうれ人のあまといはせとけりわもれ也

懐旧乃らと 市糸儀雅有

じうあま老の涙より物を我身と林のされはかり

独懐舊よりり

藤原門院少将

あれも相うらむ心人さむぬのうられじう

たりりす 天台宗主慈勝

そくはあまのこころをさげらるるじう



山本とて... 我れ此の世に...

若菜始者

...の世に...

有原威徳

...の世に...

祝下貞長

...の世に...

有原基有

...の世に...

有光院入道前白太政大臣

...の世に...

...の世に...

氏上實教

...の世に...

類不知

...の世に...

二忠は親王性助

...の世に...

伏見院上世首...



伏見院新宰相

おはぢも孫免の座より昔とさう夏のふゆ

遊女乃心と 平舟時

いふあやもさか人のうらまひなまらん

たりらす 竹蓮法師

とて世の心さきまよあつる白くおぼる

前大僧正源惠

うらむ物と世といふうらむあつる世はさへ

淡くらす

ふほくせめていふうらむあつる世はさへ

何事ぞたしむる世の心さきまよあつる

前右大臣室

今あふも心も何情くんの心あつるあ

明玄法師

何れもくうとて世の心さきまよあつる

百首うけける時 大僧正道順

とて世の心さきまよあつるあ

都 法橋相公

うらむ心は世とくつる心さきまよあつる

平時夏 笑翁基久

うらむ心は世とくつる心さきまよあつる



平宗直

友原景徳

友原新氏

前住長樂坊教定

中長祐基

源隆泰

昭慶門院一条

平時常

平時常

源隆泰

昭慶門院一条

平時常

源隆泰

昭慶門院一条

平時常

源隆泰

昭慶門院一条

平時常

源隆泰

昭慶門院一条

平時常

源隆泰

昭慶門院一条



あつるものもさきものなり世のゆくも表らる

あつるものもさきものなり世のゆくも表らる

あつるものもさきものなり世のゆくも表らる

あつるものもさきものなり世のゆくも表らる

あつるものもさきものなり世のゆくも表らる

あつるものもさきものなり世のゆくも表らる

あつるものもさきものなり世のゆくも表らる

あつるものもさきものなり世のゆくも表らる

あつるものもさきものなり世のゆくも表らる

あつるものもさきものなり世のゆくも表らる

権中納言公雄

あつるものもさきものなり世のゆくも表らる

あつるものもさきものなり世のゆくも表らる

あつるものもさきものなり世のゆくも表らる

あつるものもさきものなり世のゆくも表らる

あつるものもさきものなり世のゆくも表らる

あつるものもさきものなり世のゆくも表らる

あつるものもさきものなり世のゆくも表らる

あつるものもさきものなり世のゆくも表らる

あつるものもさきものなり世のゆくも表らる



題石知

慈好法師

ふみくさくじゆせいのせよとむそと人よ  
慈好法師世とのれぬをさして中つる  
と

後徳大寺上人

世とせぬをさしてとむそと人よ  
と

慈好法師

人よとみくさくじゆせいのせよとむそと人よ  
大原よ海よりて茶屋のふきをさめとて  
お上人よとせりしと

慈好法師

とむそと人よとせりしと

前泰儀實後おあて侍りしと

入道前太政大臣

仁年世とむそと人よとせりしと

と

とむそと人よとせりしと

述懐中よ 後一条入道前園白太

いかせんつとふのぬきとてうのぬきもはよ

弘安百首歌をてまうりも侍時

静仁法親王



世の事よ老幼の世にたゞもあしうと世と出たり

平宗宣朝臣

ふらふらと世にたゞもあしうと世と出たり

明助法親王

いづれもあしうと世にたゞもあしうと世と出たり

石共末緒基氏

えんえんたの世にたゞもあしうと世と出たり

二品法親王首助

つらつら秋の世にたゞもあしうと世と出たり

右京冬澄の世

うらうらと世にたゞもあしうと世と出たり

権少僧都澄舞

せいの世にたゞもあしうと世と出たり

前大僧正仁院

いづれもあしうと世にたゞもあしうと世と出たり

右京藏徳

いづれもあしうと世にたゞもあしうと世と出たり

前大僧正の巻

世の中いづれもあしうと世にたゞもあしうと世と出たり

式部院師範











遊一

右大臣

あつたよま年のうらむとくまのふりてはる

遊一

大納言師氏

初ふの病し余とらふ物まは花のやいふ

新院御製

あさかの花い雛うてん常とあせとひさる

永福院内侍

あまのさしとくまの病りたす下のひさる

飛山院のし事とひさる

前僧正道性

ついでにあつたよま年のうらむとくまのふりてはる

慈道は親

あつたよま年のうらむとくまのふりてはる

あつたよま年のうらむとくまのふりてはる

あつたよま年のうらむとくまのふりてはる

平維貞

あつたよま年のうらむとくまのふりてはる

あつたよま年のうらむとくまのふりてはる

昭慶門院一条

あつたよま年のうらむとくまのふりてはる



前大納言為氏才ありて後十三年はわたり  
時誦經のきけ地と存とて

太政大臣

とありは清和の落の東海うらうらとのい乃長と列の

通一 前大納言為世

今よりとありは乃草枕さきあり落のいひそり

かまうりたり人のふ成うさわのい人の所成

うらうら

浦とて一落のいひのいれ葉は海とてうらわら

龜心流されを始うて後昭訓門流と

わろを始りう時入道前太政大臣のいひは

いされたり 伏見院御製

とらうら神のうらまはありわらわらとてあ

伏見院より建を始りう時人のいひは

いれたり 式部久明親王

いれはのいひもあうら海山のわかれ林乃り

前中納言定家才ありて後お大納言

家源盛の家は始りたりつうり

いれはのいひもあうら海山のわかれ林乃り

いれはのいひもあうら海山のわかれ林乃り



Handwritten text at the top of the right page.

前大納言為家

お人さま乃さうさうおのんさんなれぬえだのね乃山里

れり神は御事え寅んあひやり候すんしんえ

進たれねのさう時のおひさしき候すんしんえ

Handwritten text, possibly a signature or name.

くらあけりあひさしあひさしあひさしあひさしあひさし

松見流るれを始りあひさしあひさしあひさしあひさし

Handwritten text, possibly a signature or name.

あひさしあひさしあひさしあひさしあひさしあひさし

安前門流るれを始りあひさしあひさしあひさしあひさし

時毎のあひさしあひさし 前村僧正教範

あひさしあひさしあひさしあひさしあひさしあひさし

前大納言為家乃あひさしあひさしあひさしあひさし

あひさしあひさしあひさしあひさしあひさしあひさし

あひさしあひさしあひさしあひさしあひさしあひさし

あひさしあひさしあひさしあひさしあひさしあひさし

あひさしあひさしあひさしあひさしあひさしあひさし

あひさしあひさしあひさしあひさしあひさしあひさし

あひさしあひさしあひさしあひさしあひさしあひさし

あひさしあひさしあひさしあひさしあひさしあひさし



母方由りて後よりなり

賀茂遠久

三十一日 母方より一書ありて作の林乃の由り

入乃一書親王御札之れ由りて林乃の由り

僧正御助よりつづりたり

法下行深

甲子日 母方林乃の由りて後乃の由り

平貞時御札より由りて後乃の由り

平宗宣御札

乙未日 母方別と云ひてや林乃の由り

藻壁門院少御方由りて母人の御由り

ありりゆふと云ひて此なる由り

林乃抄んとりみゆりて林乃と并内侍

よとてりてゆふせゆりたり

山平入道前右政大臣

なりと云ふじりのなまきいゆりて

ありゆゆりて家花思取人より

藤原業平

乙未日 母方より一書ありて

林乃抄んとりみゆりて林乃と并内侍



て前大納言長雅よりふりつりけり

前大納言長雅有

人の世も我もいふはうらやまの心もあらまじり

未だ流るれを知らずの心

源信明御旨

悲しき月日まうく今よりいれ教のいふまじり

人よとくせしはなほ

あはれなる心

とれぬ心もあらまじり心もあらまじり

後遺は御母さまの御時より

太宰大納言重家

あはれなる心もあらまじり心もあらまじり

後遺法師

あはれなる心もあらまじり心もあらまじり

前大納言長雅

あはれなる心もあらまじり心もあらまじり

あはれなる心

あはれなる心もあらまじり心もあらまじり

前大納言長雅

あはれなる心もあらまじり心もあらまじり







すまふ世のふれあふあふえきくあつたのあつた

あつた人とあひあつた権人信都忠信

あつたあつたあひあつたあつたあつたあつたあつた

平時常かゆりて後常よりさかりせり文

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

平氏村

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

後一位貞子かゆりあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

後二条院御息の程よ人二十有方儀侍ける

法下首ん身

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

武乾門院御連

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

三条入道用右大臣かゆりあつたあつたあつたあつたあつたあつた

武部卿久明親王

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

中務卿白もあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

清宗成物長







母の力まかりしむる時思のぬふ服とて侍り  
まれし たる

と年よりまかりし物とわき衣とをけりしは

坂高倉院侍るその目くらん侍り

を盤升入る前太政官

わさう神乃河の敷よりかきよき

贈埃之位の子かまかりてみ七日乃侍事

侍と送るわつみ紙よりさつけ侍り

行風法師妹

平日わきまかりしぬげのよの葉よとや

あ 昭訓門院春日

わさうこそさうけのまきもきあはたのさう

乃通物長十二年乃侍事いさみ侍り

は懐高のいと 友原宗秀

りさうけの侍りよき侍りまきいさ

平時村物長も侍りて故十二年の侍事

いさみ侍り侍り侍り侍り

平時仲

いさみ侍り侍り侍り侍り侍り侍り

龜山院十二年乃侍事の比母乃侍り



年月よわたりけり人のしるしはつらき

前僧正道性

くまの御高きとてせむり月をせのれ乃は

前原推行もあつて後叙位は加階しつ

りつり初より人のしるしをなれ

前巻法雅有

も此行も此まのつらきしつらわつてま

思ひまは

くまの御高きとてせむり月をせのれ乃は

前原推行もあつて後叙位は加階しつ

りつり初より人のしるしをなれ

後千載和歌集巻第二十

賀守

寶治百首歌名一若つらき寄日記

後原推行御歌

久々の大乃若戸れあつらひつらきつらき

若元百首寄名一いつ

一条内大臣

氏やましく國中よりつらき若とあせつら

速保と身八月中殿そ池月久時つら

と海せられつら



順徳院御製

清らよみさされ松のうらさり月も千々の新也よ  
流る流乃をよ

紫も年の流るに玉柱けりわよ世の教もよ  
竹とよ海せぬけり

二条院御製

おのくよと可代とありきん王のまはれ乃れけり  
お融院御時世野とん子日ゆり

法性寺入道持政太政官

以もかぐてよをせとよよか若まれねのけり

承暦二年内裏信番を合よ子日

前中納言匡房

りすしつら子日のお松川とてい百美代のまよ

題しらす 人跡の有家

子日とらにねる亦乃あさなり家よ世のけり

子日流とららけりよを給うきり

法皇御製

松とて何とらいん切末の子を乃まはれ乃のま

文保元年正月君少りゆり日也言はる

西園の一師奉ゆり次の年の正月同く切ま



ゆかりの又宮内府に於て去年を修りて  
を始て入るおん政を臣の事とすつたれり  
今日一れおひりて是れより後始て一々の御ま  
いり  
入道前太政大臣

積入る子とせのまもあれり  
竹葉と  
伏見院河原

むらさき屋のこれ并紫も  
乳元二年二月内裏にて竹遊年友と  
とんつらうりり時

百秋の院

常乃と云のうらまは  
人内の花乃法りて  
前大納言公任

きく花とめらの事  
建久元年  
お中納言建家

よせまのたふ人  
永仁二年  
庭花盛久と  
たふ



も園より此の去りてより  
先流入るお園白弘安八年四月三日に  
お花よ付てつるをいれ

伏見院御製

お花よ付てつるをいれ

園先流入道兼園白弘安八年

立久り君のあまのなまも又時を以てまよあ

正應二年開白詔ううわ五月六日兼む

うて春のゆかり ぬを清園白前在る

お花よ付てつるをいれ

伏見院御製

高蒲の門をくつてふいせにわいせよ世も

禁中乃心 後兼極楽院の政令

萩乃戸の花乃あまの海氷をせの萩乃けり

お花よ付てつるをいれ

のふまをいれ 萩乃守ねまのいれ

文石の長徳をいれ

伏見院御製

お花よ付てつるをいれ

寛治百首 萩乃守ねまのいれ



前大納言基良

風はふりぬるものもあはれしとてわづらひてさうじく森の林  
文治六年 西平入内厚風ふ山岸ふ菊盛り  
むすむすあはれし仙人あはれ

前中納言基家

限らぬ心持の菊は陰されぬあはれやと世とあはれと  
たの鳥羽放あ秋合ふああ

前原野總領基

君のけいさくのあはれの水のまんとあはれとあはれと  
弘安七年九月九日之着秋海とあはれとあはれと

花基久とととと 飛山流印製

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
信ふにまうしくあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

法皇御製

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
法皇御製

前原野總領基

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ











前奉議雅有

此は抄の巻の始に世を始りて子孫を承りての所の後

文永三年二月續古今集竟宴會

前中納言為氏

和歌浦よりけり玉とむらひまゝいふ所ののむと

後法村の入るお関の右左の約々の時家

百首歌よりみゆり

太宰右新室家

世々絶えぬ世々海人昔よりなる久しき海人の

文治六年女御入内屏風は江澤名は寒若

歌の百首立

前中納言定家

仍来と世乃新うとさうつんせもみあつたの毛

百首牙のりさけつ

法皇御製

昔よりとびとつた代のおなるわ竹田の原は病のり

赤え百首方なり

前中納言為相

君より心のまゝいふ子とせむ代教もかき

村上御時天養九年人常令悠紀方巳日

未入音抄懐山とあり

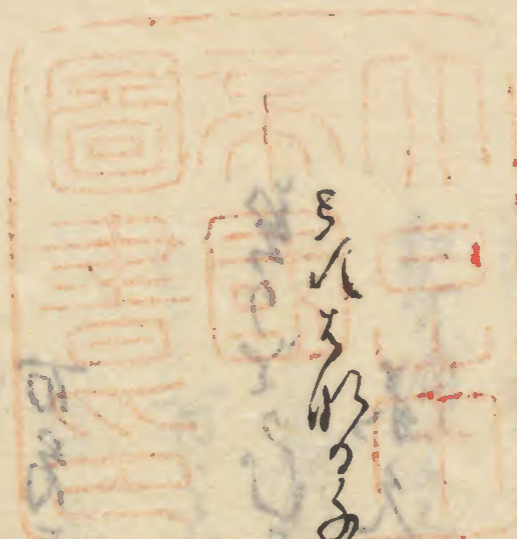


うみ人しらす

銭忠の千年れけりて山岳のゆるき海流のさ  
堀河院也何寛治元年大嘗会今徳紀の  
風俗のゆるき松原

前中納言運房

引んてゆるき乃ち松原を海を中へ流るけり  
のゆるき



松原松原

松原松原

松原松原

松原松原



